

日本双生児研究学会 第31回学術講演会

1. 日時：2017年1月28日（土） 午前9時30分（開場）～午後5時00分（予定）

2. 場所：十文字学園女子大学 9号館 9417 教室(予定)

3. 大会組織： 大会長 十文字学園女子大学 幼児教育学科 加藤則子
事務局長 十文字学園女子大学 人間発達心理学科 布施晴美

4. 講演会の概要

(1) 午前の部 10:00～12:00 一般演題

(2) 昼休み・幹事会 12:00～13:00

(3) 総会 13:00～13:30

(4) 午後の部 13:30～17:00

奨励賞受賞講演 一般演題

シンポジウム「当事者が参加する学会の強みを生かして」

(5) 懇親会 17:00～（学内にて）

※ 参加費： 2,000 円 （多胎児の会の方は 1,000 円） ※当日徴収させていただきます。

※ 懇親会費： 1,000 円（予定）

※ 託児：託児予定あり。要予約。

※ 昼食は、学生食堂、カフェテリア、生協購買部等をご利用いただけます。

お持ちいただいたものを、会場内で召し上がっていただくことも可能です。

5. 交通ご案内 （ウェブサイトも併せてご覧ください <http://www.jumonji-u.ac.jp/outline/access/>）

最寄り駅は、JR 武蔵野線の新座駅。新座駅から徒歩 8 分です。

《乗り継ぎ例》

★ 東京→（東京メトロ丸ノ内線）→池袋→（東武東上線）→朝霞台→徒歩→北朝霞→（JR 武蔵野線）→新座：実車約 50 分

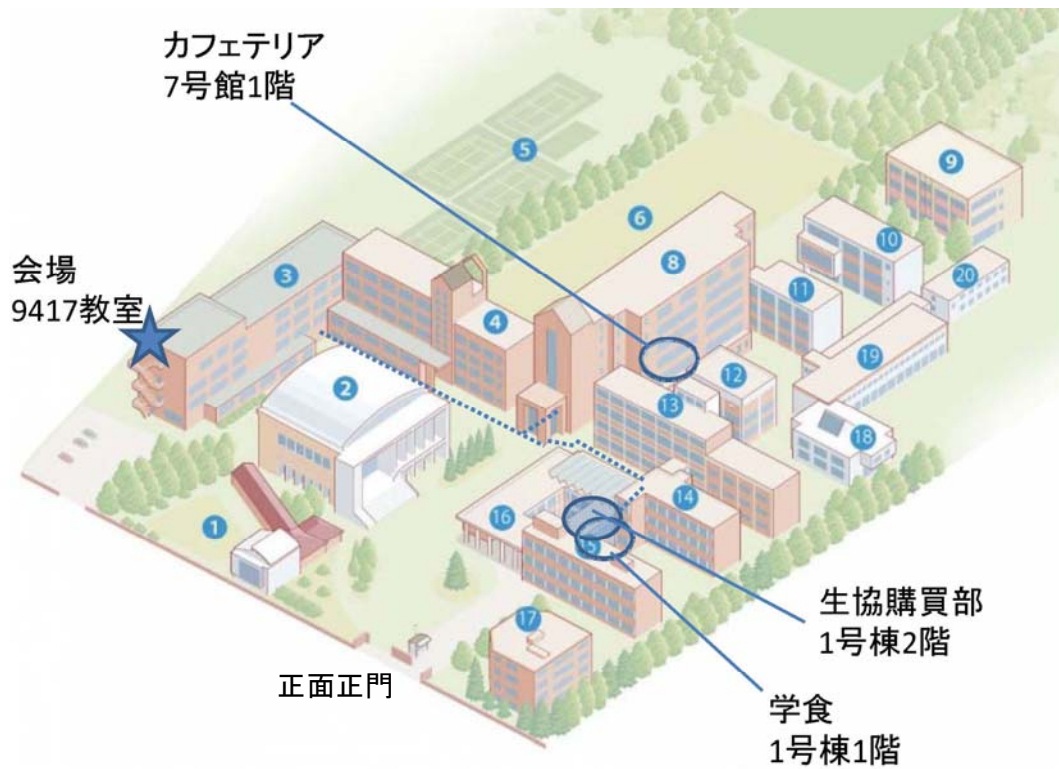
★ 羽田空港→（京急）→品川→（JR 京浜東北線）→南浦和→（JR 武蔵野線）→新座：実車約 85 分

★ 大宮→（JR 埼京線）→武蔵浦和→（JR 武蔵野線）→新座実車約 30 分

6. 会場施設地図 (☆が会場です)



7. 学内案内



8. 参加者の方へ

・演者の方へ

- 1) 一般演題の発表時間は 8 分、討論時間は 4 分を目安にしています。
- 2) 発表データは、USB メモリーまたは CD で、発表の 30 分前までに PC 受付までお持ち下さい。
- 3) 演者は、発表の 10 分前には次演者席にお着き下さい。
- 4) 必ずバックアップ用データ (CD-R、USB メモリまたは DVD) をお持ち下さるようお願いいたします。
- 5) 発表は、全て PC プレゼンテーションで行います。OS は Windows8 の Power Point2013 をインストールしたパソコンを使用します。
- 6) Windows で標準搭載されているフォントが使用可能です。
日本 : MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝 (4 種類)
英語 : Times New Roman、Arial、Arial Black、Arial Narrow、Century、Century Gothic、Courier New、Georgia (8 種類)
- 7) 動画は原則的に禁止とさせていただきます。
- 8) お預かりした Power Point のデータは学会終了後、責任をもって廃棄させていただきます。

・座長の方へ

開始予定時刻の 10 分前までに次座長席にお着き下さい。

・質疑応答について

質問・討論をされる方は座長の指示に従って、所属・氏名を告げてから発言して下さい。

プログラム

開会の挨拶 加藤則子 (十文字学園女子大学) 10:00-10:05

セッション1 10:05-10:53

座長 岩谷良則(大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター)

演題 1 一卵性双生児における DNA メチル化ペア内差の男女間比較

渡邊幹夫^{1,2}、本多智佳¹、大阪ツインリサーチグループ³、岩谷良則^{1,2}

¹大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター、²大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体情報科学講座

演題 2 一塩基多型を基にした質問群による卵性診断の可能性

松葉敬文¹ NPO 法人ぎふ多胎ネット²

¹岐阜聖徳学園大学経済情報学部

演題 3 Genetic and environmental influences on adult human height across birth cohorts from 1886 to 1994: A study of the CODATwins project

A. Jelenkovic^{1,2} on behalf of the CODATwins study group

¹Department of Social Research, University of Helsinki, Helsinki, Finland.

²Department of Genetics, Physical Anthropology and Animal Physiology, University of the Basque Country UPV/EHU, Bilbao, Spain.

演題 4 双子の出生順位による出生後から高齢期における身長および体格への影響 : CODA

Twins プロジェクトにおける 26 のツインコホートスタディ

Yokoyama Y, Jelenkovic A, Sund R, Sung J, Hopper J, Ooki S, Heikkilä K, Aaltonen S, Tarnoki AD, Tarnoki DL, Willemsen G, Bartels M, van Beijsterveldt CEM, Saudino KJ, Nelson TL, Whitfield (14) KE, Wardle J, Llewellyn CH, Fisher A, He M, Ding X, Bjerregaard-Andersen M, Beck-Nielsen H, Sodemann M, Song Y, Yang S, Lee K, Knafo-Noam A, Mankuta D, Abramson L, Burt SA, Klump KL, Ordoñana JR, Sánchez-Romera JF, Colodro-Conde L, Harris JR, Brandt I, Nilsen TS, Craig JM, Saffery R, Ji F, Ning F, Pang Z, Dubois L, Boivin M, Brendgen M, Dionne G, Vitaro F, Martin NG, Medland SE, Montgomery GW, Kim B, Chong Y, Hong C, Shin GJ, Magnusson PKE, Pedersen N, Dahl Aslan NK, Tynelius P, Haworth CMA, Plomin R, Rebato E, Goldberg JH, Rasmussen F, Hur YM, Sørensen TA, Boomsma DI, Kaprio J, Silventoinen K

休憩 10:53-11:00

座長 野中浩一(和光大学)

演題5 ふたごの個性の発達 —長期追跡研究の結果から—

菅原ますみ¹、酒井 厚²、眞榮城和美³、田中麻未⁴、天羽幸子⁵、詫摩武俊^{6,7}

¹お茶の水女子大学基幹研究院、²首都大学東京都市教養学部、³白百合女子大学人間総合学部、
⁴千葉大学社会精神保健教育研究センター、⁵青山教育研究所、⁶東京都立大学、⁷東京国際大学
名誉教授

演題6 子どもの精神的健康に影響を及ぼす全体的自己価値感と社会的受容体験に関する検討

—児童期から青年期前期におけるふたごの縦断的研究結果から—

眞榮城和美¹、菅原ますみ²、酒井厚³、田中麻未⁴、天羽幸子⁵、詫摩武俊⁶

¹白百合女子大学人間総合学部、²お茶の水女子大学基幹研究院、³首都大学東京年教養学部、⁴
千葉大学社会精神保健教育研究センター、⁵青山教育研究所、⁶東京都立大学、⁷国際大学名誉教
授

演題7 注意欠陥多動性障害（ADHD）と双生児の研究第二報：全国学力・学習状況調査を用いた分析

松葉敬文

岐阜聖徳学園大学経済情報学部

演題8 思春期における性意識の発達—二卵性双生児の事例を通して—

藤井美穂子¹、河内浩美¹

¹東京医療保健大学助産学専攻科

演題9 双生児の社会関係の発達過程を動画に見る

安藤寿康

慶應義塾大学文学部

昼休み・幹事会

12:00-13:00

総会

13:00-13:30

奨励賞受賞講演

13:30-14:15

座長：安藤寿康(慶応大学)

Association between intake of dairy products and short-term memory with and without adjustment for genetic and family environmental factors: A twin study.

尾形宗士郎 (日本学術振興会 特別研究員 PD)

Channing Division of Network Medicine, Department of Medicine, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School.)

座長 志村 恵 (金沢大学)

演題 10 多胎サークルに関する全国実態調査

大木秀一¹ 彦 聖美²

¹石川県立看護大学健康科学講座 ²金城大学看護学部

演題 11 ピアサポーターによる家庭訪問の効果

太田ひろみ¹ 佐々木裕子¹ 鈴木朋子¹ 佐藤喜美子² 山内亮子¹ 場家美沙紀¹

¹杏林大学保健学部 看護学科看護養護教育学専攻課程 ²湘南医療大学看護学科

演題 12 訪問型子育て支援ホームスタートでの多胎育児家庭への支援

HS-QISS (Home-Start Quality Improvement & Scheme Support) を用いて

田中輝子^{1,2,3} 渡里祐子² 森田圭子^{2,3}

¹一般社団法人日本多胎支援協会、²特定非営利法人ホームスタート・ジャパン

³埼玉ホームスタート推進協議会

演題 13 当事者の記述にみる多胎育児の特徴－「不安」と「大変」が示すもの

越智祐子¹、糸井川誠子²

¹名古屋学院大学、²ぎふ多胎ネット

休憩

15:03-15:15

シンポジウム「当事者が参加する学会の強みを生かして」

15:15-16:55

座長:布施晴美(十文字学園女子大学)

双生児研究基盤構築の試み

～大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンターの場合～

本多智佳・岩谷良則 (大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター)

双生児当事者が与えてくれる「暗黙知」

安藤寿康 (慶應義塾大学文学部)

当事者が参加する学会の強みを生かして

大木秀一 (石川県立看護大学健康科学講座)

ツインマザーズクラブと双生児研究

杉浦祐子 (ツインマザーズクラブ)

当事者、専門職、研究職が共に活動する日本多胎支援協会の取り組み

天羽千恵子 (一般社団法人日本多胎支援協会)

閉会の挨拶 岩谷良則 (大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター) 16:55-17:00

懇親会

17:00-18:30

十文字学園女子大学 7号館1階 カフェテリア